

○ 環境を通して行う教育の中の学び

① 生活・遊びの充実

【年少児】

2学期は、初めての運動会に向けての活動から始まりました。楽しみな気持ちの反面、緊張を感じている姿も見られました。運動会に向けての日々の中で、友達と一緒に活動する楽しさやダンスやかけっこで力一杯体を動かすことの心地よさを感じることができました。当日は、たくさんのお客さんに囲まれ、不安を感じた人もいましたが、年長児・年中児や先生、お家の人は、小中学生などに支えられながらため込んだ楽しさや自信をしっかりと發揮しました。



ゴールをめざして

2学期の半ばになると、自分のやりたい遊びや友達に自分から関わっていこうとする姿が見られ始めました。大好きな三輪車に乗りたくて早く登園する子、互いに三輪車が好きなことをきっかけに一緒に遊ぶようになる姿など、好きな遊びをしていく中で友達に対する思いが膨らんでいきました。大好きな友達との関わりの中で、遊びのイメージが広がり始め、ときには思いがぶつかる体験をしながらも、友達と楽しく過ごすことを嬉しい感じています。



みんなでぎゅうぎゅう

【年中児】

遊びに没頭する中で、ものと関わることの面白さを体験している子供たち。そしてその傍には友達の存在があります。遠足ごっこをするうちに、イメージが膨らみサークスごっこへと変化したり、段ボールで家を作る中で「オオカミが来ても大丈夫やな」とお話の世界を共有して楽しんだりする姿があります。そんな姿がそのまま生活発表会へと繋がり、動物になりきったり自分の得意な事を披露したりしました。用具の出し入れも全て自分たちでやろうと自ら動いていた子どもたち。「名札が青色（年長組の色）に変わってくるんじゃない!?」と言うほど自分たちでやり遂げたという自信につながりました。これらの体験が絡み合い友達とイメージを重ねたり膨らませたりしながら群れるように遊ぶ姿が増えている2学期後半の子供たちです。



何人増えても回れそう！



忍者のジュース屋さんです！

学びをつなぐ附属坂出学園幼小接続の構想



② 年長児・小学2年生の交流

【年長児の視点から】

2年生に招待してもらったおもちゃまつり。子供たちは、わくわくしながら「こんなに倒せたよ！もう一回やりたい！」と、2年生が工夫を凝らして作ってくれたおもちゃに興味津々でした。どうやるとうまく飛ぶのか優しく教えてもらったことを活かして幼稚園に帰って作り始めましたが、なかなかうまくできません。次の日「昨日、兄ちゃんに作り方聞いてきたよ」と、家で2年生の兄から实物を借りて来て、得意気に友達に伝えようとする姿がありました。



あのカップ、狙うよ！

香川大学教育学部 片岡元子教授より

これらの取組は、幼稚園での生活や遊びを通して学んだことを小学校での教科学習に活かしていくことができるものになっています。年長児と小学生の交流活動の実施は、小学校生活への期待を膨らませ安心して入学を迎えることにつながります。



○ 教科学習の中での教育へ

⑤ 合科的関連的な指導へ

体育科「もっともっと虫になりきろう」

幼児期に虫とふれあったときの体験や園でごっこ遊びをした体験をベースに、1年体育科（リズム遊び）の学習を行いました。

①モデルを示し、踊りが上達するポイントを頭在化



②友達と見せ合いながらよさを共有



③タブレットを使って踊りを振り返る



④さらに向上した踊りを見守る幼稚園教諭



⑤振り返りのシェアリング

生活科や日常での虫の飼育観察から、好きな虫の特徴的な動きを表出させるとおのずと動作化する子供の姿が見られます。それを見せ合うことで、どんどん上手に踊りたいという気持ちが膨らみます。

そして、踊りが上手になる要素「大きさ」「速さ」「高さ」「向き」「動き方」に着目した教科学習へ導きました。

「元気なダンゴムシが餌を探すところ」や「強いカマキリが戦うところ」などを楽しく踊り、友達と見せ合ったり、タブレットをつかったりして、どんどん虫になりきっていました。

参観にきた幼稚園の元担任の教諭は、「幼稚園のときに虫と一緒に生活したり、日常の遊びの中でいろいろなものになりきってたっぷりと遊んだりした経験が本時の学習につながっていると思う。また、友達の意見に喜んだり、よさを取り入れたりする場面も多く見られ、成長した姿がとてもうれしかった。」と感想を述べていました。

【小学校2年生の視点から】

年長さんに喜んでもらえるように、また、小学生が楽しいと思ってもらえるように、楽しいおもちゃやゲームを工夫して作りました。景品もたくさん作りました。

当日は、遊び方をうまく教えてあげられ、何回も遊びに来てくれてうれしかったです。ゲームがうまくいかず残念そうにしていた子にも景品をあげるとうれしそうにしていました。最後には、みんなとても上手になつたのでびっくりしました。

家で弟からおもちゃの作り方を聞かれて、教えると喜んでいてほくもうれしかったです。幼稚園でもぼくらのゲームイベントがブームになっていると聞いて、2年生みんなで一生懸命してよかつたなあと思いました。

年長さんのおもちゃはぼくたちのより工夫していました。教えてあげてよかったです。



スタートカリキュラムのその後の効果

入学よりスタートカリキュラムが終了する5月半ばまで、一斉メールシステムを利用し、金曜ごとに全保護者からアンケートを取った（学園だより1学期号参照）。この調査により、一人ひとりの子供や保護者が不安に感じていることが把握でき、その後の指導に活かせた。

例えば、人前で話すことに不安を感じていたAさんには、発表ができるときや友達に声かけができるときに、タイムリーに褒めるだけではなく連絡帳にシールを貼り、評価できるようにした。母親はそれを見て、家で安心して褒めることができ、Aさんにとって学校でも家庭でも褒められることになりどんどん改善されていった。



不安改善のための連絡帳